

道徳の時間で活用する ～向上心、個性の伸長～

周防大島町立東和中学校 齋藤 梨恵

1 本場面におけるポイント

- 自分の性格を言葉で表現することで、自分自身を客観的に見つめ理解を深める。
- 自分の性格で嫌な部分を、肯定的な表現に置き換えることで自分の良さとして捉える。
- 相手も自分も嫌な気分にならない前向きな自己主張の方法を学ぶことで、伝え合う力を育てる。

2 授業の実態

- 1 主題名 自分を見つめ個性を伸ばす
- 2 ねらい 自分の性格の中で嫌な部分に着目することで、自分自身をより理解しようとする気持ちをもつとともに、自己主張をすることは大切なことであることに気付かせる。

3 展開

- (1) 自分の性格で嫌なところを考え、発表する。

教師：自分の中で「こんな自分は嫌だな。」というところがありますか？

生徒：おしゃべりなところが嫌です。

生徒：頑固なところが嫌です。

生徒：気が小さいところが嫌です。

生徒：おひとよしなところが嫌です。

生徒：短気なところが嫌です。

生徒：落ち着きがないところが嫌です。

生徒：どうしても人と距離をとってしまうところが嫌です。

生徒：なかなか人と打ち解けられないところが嫌です。

- (2) (1) で答えた否定的な表現を肯定的な表現に直すとどうなるか、発表する。

教師：今、皆さんが出した「自分の嫌なところ」を肯定的な表現に直すとどうなりますか？

生徒：「おしゃべり」は「人を引き付ける話し上手」とも言えます。

生徒：「頑固」は「信頼される心の強さ」とも言えます。

生徒：「気が小さい。」は「慎重」とも言えます。

生徒：「おひとよし」は「他者を思いやる気持ちが強い。」とも言えます。

生徒：「短気」は「裏表がない。」とも言えます。

生徒：「落ち着きがない。」は「いろいろなことに興味がある。」とも言えます。

生徒：「人と距離を取ってしまう。」は「人をいろいろな角度から見ることができる。」とも言えます。

生徒：「人と打ち解けられない。」は「じっくり人と向き合う。」とも言えます。

- (3) 「私たちの道徳」 P38～39 を読む。
- (4) ここまでの活動を参考にして「私たちの道徳」 P41 を記入する。
- (5) 「私たちの道徳」 P42 を読む。
- (6) 自分の性格を大切にしたい自己主張の仕方を考える（班活動）。

教師：自己主張をする人はわがままな人だと思っている人はいませんか？また、自己主張をしたいけれど、できないという苦手意識をもっている人はいませんか？自己主張は大切なことです。皆さん一人ひとりの良さを生かした自己主張のやり方を考えてみましょう。突然ですが、アニメ「ドラえもん」の登場人物は誰がいますか？

生徒：のび太、しずかちゃん、ジャイアン、スネ夫です。

教師：このアニメの中で、一番上手に自己主張をするのは誰でしょうか？

生徒：しずかちゃんです。

教師：そうですね。それでは、のび太とジャイアンはどうですか？

生徒：のび太は自己主張が下手です。ジャイアンは逆に自己主張が強引です。

教師：そうですね。ところで、皆さんは、のび太、しずかちゃん、ジャイアンの中の誰に自分自身が似ていると思いますか？それでは、今から班に一枚ずつプリントを配ります。のび太が言いそうな言葉はシャーペンで、しずかちゃんが言いそうな言葉は青ペンで、ジャイアンが言いそうな言葉は赤でそれぞれ囲んでみましょう。

(班活動)

教師：それでは、プリントを回収します。次の時間に答えを確認して日常生活で気持ちよく自己主張ができるようトレーニングをしてみましょう。

3 実践を振り返って

「あの人は嫌いだ。」と仲間のことをあまり良く評価しない生徒は、自分についても評価が低い傾向にある。自分のどの部分を直したいと思っているのかを明確にするだけではなく、見方によっては肯定的にも捉えられることを伝えたかった。生徒たちは、活動を進める中で、見方を変え、肯定的に捉えることで、他者への理解にもつながっていることに気が付いていた。

他者の意見を聞かずに自分の意見だけを述べる生徒がいる反面、自分の意見を集団の中でさらけ出すことができない生徒もいる。自分の意見が出せない生徒は、ストレスがたまりがちとなり、感情を爆発させる場面がこれまで多く見られた。強い調子で押し付けるのではなく、反対に言いたいことを我慢するのでもなく、上手に自分の気持ちを伝えることで人と人との結び付きが強くなることを伝えたかった。今回は、今回の授業を生かした道徳の授業を行いたい。